

リスク研究センターの主な研究活動

◆国際シンポジウムの開催

・2014年6月、ベトナムのハノイ国民経済大学の共同研究者2名とJETROのベトナム、タイ調査部門の専門家を招きシンポジウムを開催。



◆経済学部90周年・リスク研究センター10周年記念シンポジウム開催

・2013年5月31日、“競争と協調で拓くアジアの未来”を開催。



◆第7回世界水フォーラムセッションに参加

2015年4月、韓国のデグ市で開催の第7回世界水フォーラムに日本で唯一テーマセッションを獲得し、「世界の湖沼流域におけるステークホルダーの参加・合意と環境分野の資金調達」というテーマで臨みました。



NEW!

◆第12回アジア金融市場国際カンファレンスを開催

2017年1月7日(於:京都テルサ)1月8日(於:滋賀大学彦根キャンパス)にて、第12回アジア金融市場と経済発展・国際シンポジウム(International Conference on Asian Financial Markets and Economic Development)が、滋賀大学・長崎大学・西南財経大学との共催で執り行いました。会場を二日間で別の場所にするという難易度の高いものでしたが、学会運営担当者全員の協力により無事に執り行うことが出来ました。発表希望数が多かったため、同時に二つのセッションを同時に走らせる方式で、合計28本の研究報告を行いました。



◆リスク研究センター主催セミナーを随時開催しています。

リスク研究センターが中心となり、「リスク分析」並びに「データ分析」に関する研究において、学外との研究交流を積極的に推進しています。リスク研究センター主催の(ミクロ・マクロ・計量・金融・医療・社会学、その他の応用分野も含む、最先端で活躍している研究者を招聘し、先端セミナーを年間10回以上を開催しています。

セミナー情報及び、参加申し込みはリスク研究センターHPよりご確認下さい。

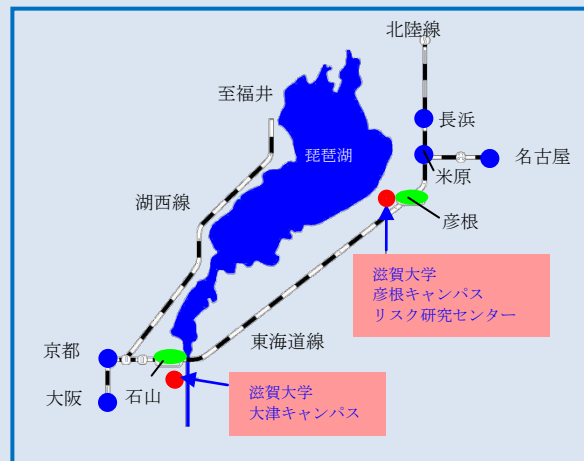
リスク研究センターは、書籍やディスカッションペーパー、情報誌リスクフラッシュ(月1回程度発行、発行部数は約1500部)などを通してリスクと不確実性に関する学問研究活動を支援しています。

所在地

滋賀大学は地理的に日本の中心である滋賀県に立地している。滋賀県は古くから自然や歴史財産に恵まれ、日本最大の淡水湖“琵琶湖”がその代表である。



滋賀大学へのアクセス



Contact Address

リスク研究センター (CRR)
滋賀大学経済学部 (彦根キャンパス)
〒522-8522 彦根市馬場1丁目1-1
TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189
e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp
URL: <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>



国立大学法人

滋賀大学



滋賀大学経済学部附属

リスク研究センター

20世紀をグローバル化の時代とするならば、21世紀はリスクの時代と位置付けられる。今日、世界は大きな変革の中にあり、経済、社会は天災も含め様々な予期せぬリスクにさらされている。謙虚に人間の限界を知り、その中で最善を尽くすにはリスク研究は欠かせない。地域に立脚する現代の国立大学として滋賀大学の社会的貢献がそこにあると考える。社会科学系の唯一の「リスク専攻」の大学院後期課程を有する大学として、効果的なアプローチと洞察力ある分析によってこれらのリスク事象に正面から取り組んでいかなければならない。

リスク研究を深め、蓄積し、内外においてこれを推進する母体として滋賀大学リスク研究センターは存在する。



リスク研究センターとは

リスク研究センターは現代のビジネス社会におけるリスク分析やリスク管理の需要に応える研究を行う新しい機関として、2004年2月に滋賀大学経済学部設置された。滋賀大学教員の幅広い研究フィールドを生かし複雑化する経済活動、社会構造、そして国際関係に伴い拡大するリスクに焦点を当てた研究を行い、その成果の蓄積と社会還元を遂行することがセンターの目的である。

主研究領域

リスクの存在は広範囲の分野にわたるが、次に掲げた分野に焦点を当て取り組む：

- 金融リスクの理論と実証研究。
- 環境リスクにおける新しい視点と分析。
- 経済・社会リスクについての統合的な研究。



リスク研究センターの目標

センターの活動と役割は次の目標の遂行に置かれている：

- リスクと不確実性に関する研究プロジェクトを国際的に支援、実行する。中国東北財経大学(大連市)、韓国啓明大学(デグ市)、ベトナムハノイ国民経済大学(ハノイ市)との国際共同研究を推進。
- 意思決定や企画・立案などに求められるリスクの重要性やその考量について理解の普及と深化に貢献する。
- リスクに関連する研究成果を蓄積すると共にリスクに関係する教育の浸透を通してリスクの理解とリスク管理の普及を推進する



国際顧問会議

センターの活動や方針については、経済・産業界の意見や要請に真摯に耳を傾けることにより、経済・社会のニーズをくみ取る必要がある。センターの方向性や方針を大所高所から助言する機関として国際アドバイザー会議を設けている。会議メンバーは、ケロッグ経営大学院ドナルド・ジェイコブス名誉学長やシェフィールド大学東アジア研究所所長グレン・フック教授など産業界のリーダーと国際的学術活動の分野で活躍する学識経験者から構成される。